複合施設整備事業の在り方を考える

～風洞実験の実施～

令和2年9月29日、道立総合研究機構北方建築総合研究所において、複合施設の風洞実験を行いました。

風洞実験とは、トンネル状の空間（風洞）に人工的に風をつくり、雪を想定した粒子（活性白土）を供給して吹雪が発生した状況を再現するものです。

今回は、複合施設の縮尺模型を風洞内に設置し、吹雪の際に雪庇（せっぴ）や吹きだまりがどこにできるかを事前に把握し、その対策を検討するために実施しました。

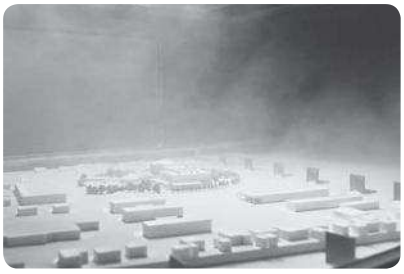
実験結果から、文化ホールの東側屋根と診療所の北側屋根の部分に雪庇（せっぴ）ができそうなことや、西出入口とホワイエ西側の光窓の付近に吹きだまりができそうなことがわかり、屋根や壁の形状変更や、庇をつけるなどの対策を実施設計の中で検討していきます。

①風洞内に設置された模型

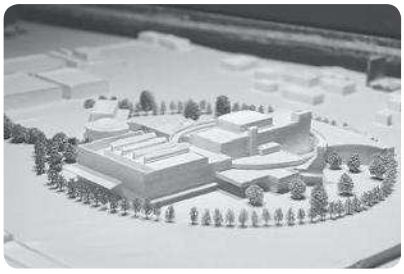
②モニターで観察しながら実験開始

③粒子を吹きかける様子

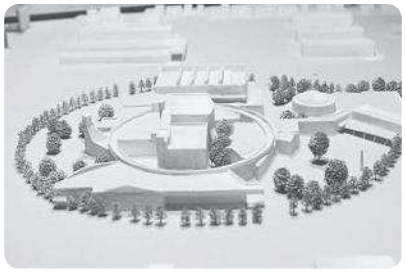
④実験中の模型



⑤実験終了時の模型



⑥実験終了時の模型（別角度）



防災訓練放送

11月5日(木) 午前10時～

防災行政無線の訓練放送を実施

東神楽町では、地震をはじめとする大規模災害や、武力攻撃などの緊急事態の発生時に、全国瞬時警報システム【J-ALERT（ジェイ・アラート）】から送られてくる国からの緊急情報を、さまざまな情報伝達手段を用いて確実に皆さまへお伝えするため、緊急情報伝達訓練を行います。各家庭に設置されている戸別受信機および各地区公民館などの屋外スピーカーから放送が流れますが、訓練放送ですので、実際の災害などとお間違えのないようにご注意ください。

※訓練当日、実際の災害が発生する可能性がある場合は、中止することがあります。

※防災行政無線の音量は、緊急放送の訓練のため最大音量で放送されます。

【訓練放送の内容】

防災行政無線上りチャイム
↓
「こちらは、防災東神楽です」
↓
「只今から訓練放送を行います」
↓
緊急地震速報チャイム音
＋
「緊急地震速報。大地震（おおじしん）です。大地震です。これは訓練放送です。」
×3回
↓
「こちらは、防災東神楽です」
↓
「これで訓練放送を終わります」
↓
防災行政無線下りチャイム